


「帰」はじめて行く。かえる。あるべき位置に落ち着くの意。

帰命とは、南無と同じ意味で、敬い信じています・阿弥陀さまに
帰依させていただきますの意。

しんらん同人

No.554

1・2
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

新しい年が皆様方にとりまして、思い出溢れた素晴らしい年でありますよう、誓願寺関係者一同心より祈念いたしております。

私には、三つの名前があります。

満州から引き上げる途中の昭和二十年十月、現在の中国・安東市で誕生した時に、母方の祖父がとりあえず付けた「文比古」という名前。

翌年満州から博多港に引き上げ、同地で巡り合った父が付けた戸籍上の名前「尚之」。

誓願寺のお手伝いをするため得度をし僧侶となった時にいただいた「釋尚文」という法名。（尚之と文比古から一文字づついただきました。）

文比古・尚之・釋尚文。それぞれの名前に対して思いがありますが、文比古と尚之を合わせた、法名「釋尚文」に不思議な御縁（えにし）を感じるばかりです。

法名は本山や築地本願寺また誓願寺でも受けることが出来ます。誓願寺では、ご本人の個性や特徴を考え、宗教的・仏教的に香ある清らかな法名を選ぶことに努めています。死後どのような法名をいただくのかわからないより、今仏弟子となる厳肅な気持ちの中で、生前法名をいただき安心して浄土への白道を歩ませていただくのも、意義のあることではないでしょうか。お気軽にご相談下さい。



知恩報徳の益



「聞く」とは、仏さまのお慈悲で念仏申す身とさせていただいてよかったと喜ぶ心となつたことです。残念なことに近ごろ恩ということが忘れられがちで、そんなものを押し付けようとするのかといわれます。

恩は押し付けではありません。私がいただくものです。

それも社会的にというのではなく、こうしておられるのは、おかげさまでと喜ばせていただく世界です。

信心をいただいた人は現世に十種の利益が与えられますが、その一つに「知恩報徳の益」というのがあると親鸞聖人は申されま

す。恩を知るとは、自分はどうのような生き方をしているかと我が身を見つめた人にだけ判る世界です。

そうなれば今までは変わります。自分が見極められないと「あんなことをするから世の中が悪くなるのだ」というように、他が自分を悪くするという考えです。

親がしつかりしないから、子供が勉強しないからといえます。そういう考え方には有難うおかげさまでという觀念はありません。

いまどうして生かされているかを見極められない人たちです。仏の慈悲を喜び、世の中の多くのご恩を有難うと受け取れる智慧をいただくのが念仏です。

そうなれば他を批判することなく、あつちを向いてもこっちを向いても、おかげさまと喜ばせていただけます。にこにこ顔ですと心が開けます。不服ににこにこ顔はありません。

心ゆたかに、おかげさまでという気持ちで生かしてもらっている人なら顔も穏やかです。

それを仏法では「和顔愛語」と教えます。「和顔」とは平和な顔、にこやかな顔。「愛語」とは優しい言葉です。

にこやかな顔と優しい言葉はご恩を知った人からでます。

有難うございまして喜べる人でしたら、顔立ちまで和やかになり言葉も優しくなります。

それでこそ世の中の人とも仲良く楽しく暮らせます。理屈を並べてもその人から受ける印象の方がはるかに大きいのです。

家庭でもお父さんやお母さんがにこにこ顔だと子供も明るくなります。

教育問題が色々取りざたされていますが、それはまず自分からです。自分の本当の姿に気づくなら大きな恵の中にあつたと喜ばせていただけます。それが仏法の出発点であり帰結です。

親鸞聖人は申されます「念仏を称えようとする人は、自分の一身のためを思わなくても、おおよけのため、人々のために念仏を称えあわれますなら立派な事でしょう。

浄土に往生できないと思う人は、まず自分自身の往生を考えてお念仏なさい。自分一身は必ず往生が定まっていると思う人は、仏のご恩を感じられているのですから、報恩のためにお念仏を心にいれて「世の中が安穩であるように、仏法が広まるように」と願うべきです。このほかに別の考えがあるとは思えません。よくよくお心に入れて称えるべきです。」

キリスト教は、神の恵みに従わなければ、罰せられて煉獄に落とされると教えられます。

悪い結果を生むのは自分だから身を正さねばならないということから、あのような美しい日常が生まれます。

ところが浄土真宗にはそれがありません。仏さまのお慈悲は、なに人も救い上げて浄土に生まれさせようというのですから、地獄に落ちるようなことをしても落とさぬのが仏願力です。

その慈悲の中に生かされている自分だと知らされてこそ、ここに顔と優しい言葉でありがとうございますと喜ばれる世界がめぐまれます。

親鸞聖人のおしえでは、おねがいしますというのではなく、仏のお慈悲にすべてを託して、おかげさまとご報謝の念仏しかありません。

そう頂戴しますと少しも難しくないのでですが、私たちの日暮らしがおかしいので聞きにくい面もありますが、幸せを知らせてもらうにはそれ以外にはないのです。



「法味抄」より

佛は慈しみの眼を以つて、すべての人々をわけへだてなく、あたかもひとりひとり小児のように見ていて下さる。

(行巻)

佛は佛を思ふ者を、百重千重にとりまいて下さり、昼となく夜となく、歩いている時、眠っている時、いづどんな所にいても、佛はいつも離れることはない。

(礼賛)

これより西の方、十億の佛土を過ぎて、極楽となづける世界がある。その佛土に阿弥陀仏がいてくださって、今現に説法してくださっている。その国の衆生はすべての苦悩もなく、この上ない楽しみを受けているから極楽というのである。

(小経)

「法味抄」は、故岡本泰雄が「聖教を読みたいと思っても、漢文や古文で書かれているのでなかなか理解しにくい。わかりやすい仏教書がほしい。」という方々の願いに応じて、真宗聖教中から要文を抜き出し、意訳した冊子です。

聖語末の(一)内の文字は聖教の書名を略記したものです。

「帰」に思う事

誓願寺 副住職 古賀 明徳

「かえる」という言葉は様々な漢字で表わされます。

「返る」と書くと「元に戻る」。「還る」と書くと「多くの地点を経由して根源となるところに戻る」。「帰る」と書くと「人が家や故郷など元いた場所に戻る。あるべき位置に落ち着く」という意味を持ちます。

浄土真宗宗祖親鸞聖人も、その著書においてしっかりと漢字を使い分けされ、ご法義を示してくださいました。

いくつかご紹介させていただきます。

親鸞聖人を他力の道へと導いて下さった師である、法然上人ご往生の際「法然上人は浄土へ還歸された」と、浄土からお越し下さった仏さまであったと、そのお姿をご覧になられました。

また、阿弥陀様は本願力によって「信心の人（法然上人）を摂取して浄土に帰入せしめけり」とお読みくださいました。

正信偈の冒頭においても「帰命無量寿如来」と「自身の命（全て）を阿弥陀様にお任せする」というお心が示されています。

他にも「帰依」「帰敬」など様々な箇所でご用いて下さった大切な文字です。

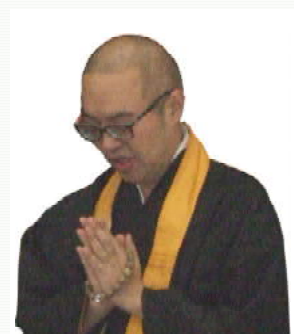
またご法話などでも「私たちはこの世界との縁が尽きた時、お浄土に帰る」とお聴かせいただきます。「一度も行ったことがないのに、帰るというのはいかたがうではないか？」と思われるかもしれません。でも、病院で生まれた赤ちゃんが初めて家に行くとき、抱きしめたお母さんは「さあお家に帰りましょうね」と優しく言うと思うのです。

それは、家には多くの迎えてくれる人たちがいるからです。私たちもお母さんのように温かい阿弥陀様に抱かれて、お浄土に初めて行かさせていただく。そして先に往生され仏さまに成られた多くの大切な方々とまた遇わせていただける。きっと優しく迎え入れてくださるに違いありません。安心して、本来命のあるべき場所、真実の場所、阿弥陀様のお浄土に帰らせていただけるのです。

誓願寺も皆様が安心して帰ることのできる場所。阿弥陀様のお話を共々にお聴かせいただける場所になれば良いと思います。

今年もよろしくお願い致します。

合掌



お仏壇について

最近では何代にもわたって同じ家に住むことがめっきり減り、核家族化もすすみ、昔はどのお宅にもあったお仏壇が安置されていないご家庭が増えてきました。

「なぜお仏壇がないのですか」とお尋ねすると、けげんそうな顔で「まだ誰も死んでいませんから」とか「田舎にありますから」といった返事が返ってきます。

こうした言葉のうらには、お仏壇は今生きている家族の誰かが死んで初めて必要となるものであり、ご先祖さまにしても、子供の誰かが面倒を見れば事足りるといった認識があるようです。さらに言えば、お仏壇は死者や先祖をおま

つりするためのものと思っているようです。

しかしはたしてそうでしょうか。お仏壇というのは、文字通り仏さまをご安置する壇のことです。仏さまとは言うまでもなくご本尊である阿弥陀仏のことです。

少しのことにごだわって悩み自己を見失いがちになる私をしっかりと抱きとめて決して崩れることのない安らぎを与えて下さる阿弥陀さまです。

お仏壇はそうした私の心の拠りどころとなり、家庭の精神的基盤となってくださる阿弥陀さまをご安置するところです。

お墓について

以前しんらん同人の質問箱に、次のような質疑が掲載されました。

質問 「お仏壇を買いと家族が死ぬと言いますが、本当でしょうか」

回答 「はい死にます。買わなくても死にます。」

私たちの周りには、いかに多くの迷信が溢れているのでしょうか。



【ご法座等のご案内】

1月

2月

1・1
(水)■午後一時
元旦会1・12
(日)

■午前十時

定例法座〔古賀明德師

■正午

医療相談〔佐藤公彦医師

1・19
(日)

■午前十時

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

1・26
(日)

■午後一時

新春特別法座 祥月命日合同法要

〔星野親行師

2・9
(日)

■午前十時

定例法座〔金安一樹師

■正午

医療相談〔佐藤公彦医師

2・16
(日)

■午前十時

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

2・23
(日)

■午後一時

定例法座 祥月命日合同法要

〔大野孝顕師

編集後記

今回「法名」「お仏壇」「お墓」について日頃の思いを掲載いたしました。こうしたことの原因は、日頃「死について一般的なお話をしながら、具体的なことを避けてきた私たちお坊さんの責任だと考えます。

遺族の方々から「愛する方のお別れに於て納得したお別れが出来なかつた」とのお言葉をいただいたこともあります。私自身を含め、ここに「大事な自分の終活を考える事」をお勧めする次第です。

昨年末には多くの方から渋柿をいただき、早速干し柿くりをいたしました。

福岡在住の長女一家が三月からトナムに転勤。寂しくなりますが、坊守は何時観光に行こうかと前向きです。相変わらず、イタリアティのかたまりです。

本年の来寺記念品は「われもひかりのうちにあひ」と名入れた「クリップライト」です。



〔クリップライト〕